世界婦人

●本誌は、世界主義を標榜して婦人解放を主眼とす

本號目次

△女子と職業　安部磯雄（一）
△論説　大石禄亭（二）
△日蓮上人の婦人觀　湯地松堂（三）
△人間の光り婦人に寄す　細井吼崖（四）
△男女愛情の心理的見解　林孤雲（四）
△農科と職科　増田操（五）
○東北地方の婦人　円田鋼藏（五）
△小説雜纂　香尾木葉（六）
△海外時事（二）
△海内時事（三）

小説家士の來翰は筆者二葉亭四迷氏病氣にて休稿のところ最早や全快につき次回には必らず掲載すべし讀者之を諒せられよ

○女子と職業

安部磯雄

女子に職業教育を授くるの可否に就きては餘り多く議論するの必要はないが如く思はるゝけれども、男子の中には女子に職業教育を與ふることを以て頗る危險なることゝ思ふて居るものもあるらしい。兎に角女子が獨立の生活を爲し得るに至れば決して男子に屈從する樣なことはないから、彼等に職業教育を授くるのは彼等をして男子に反旗を飜さしむるの途を開くことになるのは明である。故に女子の反抗を恐るゝ樣な臆病男子は極力女子の職業教育に反對するかも知れんが、少しく考へて見れば男子として斯る馬鹿らしきことの言へる筈のものでない。

今日までの女子が何故に男子の抑壓に甘んじて居たかと言へば、彼等は男子を離れて生活することの出來なかつた爲ではないか。先づ結婚といふことを實情に考へて見れば女子に自活の力がないから、否でも應でも人に嫁するといふ必要があるのではないか。若し彼に自活の途があれば何も急いで結婚するの必要もないし、亦自ら滿足せぬ男子に嫁するにも及ばぬ。一旦結婚したる後男子の侮辱や虐待とを受けながら尚ほ離婚を請求することの出來ないのは矢張自活の方法がない爲めではないか。凡そ獨立生活の出來ぬもの程世に憐むべきものはあるまい。彼等の苦樂は勿論、彼等の死活さへも他人の手に左右せらるゝではないか。勞働者が大器械を使用して物品を生産する樣になつてから、彼等は終に資本家の奴隷となるに至つた。女子の境遇も亦勞働者の其と何の異なる所があらう

君主が人民を抑壓して外面的の平和を得るよりも、寧ろ彼等に自由を與へて道徳的に之を治むる方其幸福は遙に多い。資本家も亦勞働者を虐待することなく、却つてこれを優遇したらんには双方の利益は明に增進するに相違ない、男子が女子に獨立の資格を與ふることを拒むのは恰も君主が飽くまで人民を愚昧にして消極的平和を望むが如きである。男子の横着も實に甚しいではないか

極言すれば今日の結婚は強迫的であつて、自由意志より出でたものではない。女子は必ず男子に嫁すべきものと定まつて居るから、殆んど將來夫たるべきの人を撰擇することも出來ないのである。勿論多數の場合に於て彼等は撰擇の自由を有して居るが如く見ゆれども、其は不滿足の多きものよりも不滿足の稍少きものを撰擇するの自由であつて、少しでも意に滿たざる所あれば絶對に之を拒絶するといふ自由を有して居ない。別言すれば彼等には獨身生活を送るといふ自由がないのである。是は果して女子の幸福であり、併せて男子の幸福であるだらうか

茲に己れの戀愛せる女子ありと想像せよ。彼を娶るに二の方法がある。一は己れの誠意と熱情を以て彼の心を動かし、終に彼の快諾を得るのである、一は己れの位地や財産を見せびらかし、彼の兩親や親戚を誘ひ強迫的に彼を獲んとするのである。此二つの途の何れが優れるかは多く言ふ必要はないと思ふのであるが、女子の職業教育に反對する人は慥に第二の方法によりて女子を娶らんとするものである。彼は強迫的に女子の愛を獲んとする卑劣漢であると言はねばならぬ

職業は女子を獨立の位地に置くのだから、女子は決して強迫的に男子に嫁するが如きことはあるまい。此の如き位地に在る婦人の幸福は言ふまでもなきことで、これを娶る所の男子も必ず幸福なることゝ思ふ。君主專制の時代は過ぎ去り、勞働者の權利は益々擴張せられんとするに際り、尚ほ女子に獨立の資格を與ふることを恐るゝ保守論者のあるには、吾人呆然たらざるを得ない

友への返し

女學生

B樣、私は泣きません。泣きたくつても泣きません。悲しい……口惜しい……けれど、もう、もう涙なんか出やしませんわ、あゝもう何も暗黒だ〳〵、メチヤ〳〵だ、馬鹿〳〵しい、神が何だ、社會が何だ、ホヽ、馬鹿ゲてるわ、ゴッドは、人類を幸福ならしめんが爲、此世に御下しなさつたつて、そう　B樣私は何もわからなくつてよ、いつ愛して下さるのでせう、死んぢまつては駄目だわ、B樣私、靈魂は不滅でなくつたつて好いの、死んでからの事わからないのです者、燒野の雉子、夜の鶴、子を思ふ親心は皆一つだなんて、B樣私、わかりませんの、子を思つてくれる親心を知る事が出來ないのですもの、アヽ何も暗黒だ〳〵親もいらない、兄弟もいらない、勿論私の體もいらない、天地も宇宙も滅亡してしまへ、面倒くさい死ね〳〵、皆死んでしまへ人も私も、何も三分五厘の世の中だ、泣いて過そうと笑つて送ろうと、勝手氣儘の御好み次第だ、アヽンと云つて、人生の曲線が、まがりたければ、今其支度をして、準備をして置くまでですわ。

こんだ厄介者が生れて來て、御氣の毒樣ですね―、然し此厄介者一體誰が生んだのでせう、父母が生んだ相違ない、社會が生んだ相違ない、自分で生んだ相違ない。それから今一つ壓制が生んだのだ、面白い〳〵私は面白くて堪りません、B樣面白くはございませんか、面白いでせう、おかしくはございませんか、先生は誰れも時勢の子だつて、私等も時勢の子なら猶更もつて面白うございます。

『アヽ天されど、いづてよりか、いづてえか、智識は知らず、信仰は知らず、たゞ不思議より不思議に、神より神に至るまで』仲〳〵私大すき。（カーラヘル）これもおもしろいでせう。カーラヘル大すき。今日はこれにて、又かきませう。

サヨーナラ　A

B樣

追に寄手を書きん爲めに發表れりと意ふなかられ

（馬太郎）

○玄

青青森繁ゆる虫の聲
　見よ枝葉に露珠纏ふ
醜聞大蛇の吐く毒氣
　神の子羅の子揺ぎ戦す
呼奴たらずや其哀さ
　人生の精神は乱なし
名けて自由の戀愛と呼ぶ
　嗚々自由平　アヽ不自由！
呼吾れ宣す　偽自由
　自由が美名　すべて空の空

○神秘

露浮漬々空を蔽ふ
　侘しくも似たりわが眞心
聞ある丘に佇みて
　今力なく落つる日の
光に泣かん人やたれ
天鼠翠ある夕闇帯
　闇の下寂のはや既に
一ト聲二ト聲ちり〳〵ぬ
　オー吾は我れもわが如く
おなじ絆緒に魂ゆるゝ

○石に恥ぢよ

我は歎せん　家祈らん
　君よ聞かずや　石すらし
一萬年の　時な解ば
　一時その　千分一
長生數育　するといふ
我せよ我が口　家へ還家
　石飛び叫ぶ　世とならば
時めく權者　彼の融
　清安の長眠　眠めやらぬ
夢の結果が　誰はやめよ
我は獻せん　微笑んで
　わが微笑の　十字架は
豊夢種の　それならむ
　犠牲の動紗の　恍惚ぞ
只見る神の　無道なる

●女子大に讀むべく男子盛んに讀まさる可からず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

装飾論

大石禄亭

装飾は美術の一部であつて、庭園や家屋を飾つたり携帶品に數寄を凝らしたり、又自分の身體に化粧を施すなど、何れも人間が美的欲求を充たすの道である。其内我々が自己の身體を装飾の一部分に使用すると言ふは、美術の上から見て果して高尚な趣味であるか、否やと言ふ事を尋ねて見るに

太古人類が多く裸體で生活して居た時は、植物の油や動物の脂肪へ赭石や緑青の様なものを交ぜて皮膚を彩色したり、其他種々の色素を以て身體を染めわけたが、其色はすべて光澤ある派手なものを選んだ。又或時代の人は身體の一部を故らに毀損して見たり變形させて装飾とする事がある。則ち鼻耳類などへ穴を穿ちて之に種々の飾りを着けたものもある、前歯を抜き足を縮め唇を切つたものもある、文身を爲し歯を染めるなども此風習の一例である

次ぎに一層進んだ所では右の様な恐ろしい粗野な事を以て装飾とせず、あたまの髪飾りや衣服や帽子や携帶品の上に多くの意匠を注ぐ様になり、之に用ふる材料も金銀寶玉の如く小量にして價高きもの、彫刻刺繍染模様の様な美術的のものに變化して來た。さうして此装飾と言ふ事に對して、殊に身體の化粧に就て今日では兩性の内ち女子の方がより多くの趣味を有つて居るが、未開時代には男女が殆んど同じ程之に腐心したもので、アゾール島やナイル河畔の蕃族間には女子よりも男子の方が派手に飾立てる習俗であつた。又北米インデアンの内にも妻が夫の身體を彩色する爲めに最も多くの時間を費す種族があつたと言ふ。尚ほ各國風俗變遷の跡に考へて見るも装飾は概して人智が進み品格が向上するに從ひ、濃厚より淡雅に移り派手なるものを捨て、着實質素なるものを採るが如き傾が明かに看取せられる

前にも述べた如く装飾は本來人間の美的要求から起つた事であるが、其進化の道程に於て之に他の目的が附け加はり、今日では却つて本來の趣意を沒却するまでに及んだ。則ち或ものは權威や勳功を示す爲めにし、或ものは富貴や虚榮を衒ふ爲めにする。昔アビシニアの戰士は其勇敢の度を現はす爲めに或飾りを頭上に戴き、敵を殺す毎に其數を殖やした、さうして十度び其勳功を重ねたものには盃の如き装飾を爲すを許したと言ふが。今の軍人が階級を區別する爲めに腕の飾や肩章や胸飾を用ふるのも、軍備そのものと共に野蠻制度の殘留物ではあるまいか

昔アフリカのテンカとボンゴ種族の婦人は頸や腕や足へ非常に大きな鐵の飾りを着け、其重さ六貫匁にも及ぶ、又フイター島の女子は周圍五尺もある飾りを腰につける。五尺と言へば今の庇髪もなか／＼及ばぬ大さであるが、そこらあたりには兵子帶として大巾一丈何尺と言ふ縮緬を腰に巻く人もあり、純金何十匁と言ふ指輪をはめて得々たる人間もある。先日も或雑誌に流行の洋傘と言ふ事に就き左の如く書いてあつた

實用を遠ざかつて殆んど装飾一方の洋傘さへ出來、これが賣れる様になつたのが此頃の大進歩であります――理窟からいつても夏季は幾ら贅澤をしやうと思ふても、金をかける事が出來ないのであるから、夏季の洋傘を氣張つて身分相當の装飾品として洋傘を揃ふる様になるは自然の結果であらうと思ひます

これは或商家が品物を賣らんとする廣告の言葉で、勿論取るに足らぬ話ではあるが、世間には之を讀んで成程と思ふ人も無いでは無い、然し今の紳士や貴婦人と言ふもの、多くは之と同じ様な考を有ち、人間の身體には何か價高きものを着けて置かねば品格が下ると思ふものがある。又或人は何んでも他人に負けてはならぬと言ふ念から、多くの財を費して装飾に意匠をこらし、偶ま自分の氣に入るものが出來ても、若し外に之と同じ品を持つ人が出來ると、直ぐ又それが厭やになると言ふ。斯う言ふ装飾のやり方には調和や配合に何の考も費さず、唯むやみに手數のかゝる事や錢の出る物を追求め、装飾本來の目的なる美と言ふ事は全く度外に置かれて居る。

尤も今日の如く社會の生活が複雜になつた場合に於ては、装飾を何かの爲めにする事が自然と必要になつて居るかも知れぬ。則ち立派な衣服を着て人の信用を買ふとか、紅粉を粧ふて媚を賣るとか、或は他に高尚な娛樂を味ふの餘裕なきが爲め、衣服や携帶品の贅澤によつて僅かに慰むると言ふ事も幾分は止むを得ぬであらうが、斯の如き目的の爲めに装飾を利用する事は甚だ好ましからぬ話で、今後社會の状態が改善せらるゝに從ひ早晩廢滅すべき風習であらう。要するに人が自分の身體を装飾の手段にする事は今後如何に變化し行くべきか、髪へ鏝をあてたり口髭へ油を塗る美顏術が何時まで世に行はるゝか、着物や携帶品の流行に何處まで權利があるか、さう言ふ問題は先づ別にして措いても、装飾と言ふものを本來の目的なる美と言ふものから遠く離して、唯だ贅澤の爲め虚榮の爲め、又生存競爭の道具に使ふ事だけは、一日も早く止めて欲しいものだと思ふ

海外時事

米國の婦人勞働

米國に於ては近年婦人勞働の增加甚だしき者あり一九〇〇年の調査に依れば、十六歳以上の婦人二千三百四十八萬五千五百五十九人の中、勞働に從事する者四百八十三萬三千六百三十人あり、而して此の勞働婦人は大抵壯年者にして、三十五歳以下の者六割八歩、廿五歳以下の者四割四歩、廿一歳以下の者二割五分なりと

又一八八〇年の統計を一九〇〇年に比較するに、勞働婦人の數、正に二倍に增加し居り、一八九〇年を以て一九〇〇年に比較するに、結婚せる婦人の職業に就く者著大の增加を爲せり、

又米國に於ける三百三個の職業中、全く婦人の從事せざる者は僅かに九個にして、婦人勞働者の最も多き職業は左の如し

△[illegible]技師、四五八、[illegible]人、三一△水先案内、五△瓦工、一六七△製[illegible]、一九六△石炭坑夫、六二五八△貿易人、三八△[illegible]、一三二〇△家内勞働、二、〇九〇△音樂教師、二二七、〇〇〇△醫師、七、三九九△[illegible]師、二〇〇〇〇△著述家、五、九八四△商家、一三〇〇〇〇△新聞記者及探訪、二、一九三△教育者、三、四〇五△[illegible]技師、一〇〇〇△速記方、七四四、〇〇〇△小賣人一四九、〇〇〇△タイプライター及速記師、八六、〇〇〇△電話電信技術員、二二、〇〇〇△簿記人、九四六△簿記師、一四六、〇〇〇印刷業、一六、〇〇〇

佛國の婦人勞働

佛國の總人口三千七百七十三萬人の中、一千九百七十五萬人は勞働者なるが、其中六百八十萬五千五百人の婦人の勞働者あり、更に之を分類すれば、農業從事八百十七萬五千餘人の中、二百六十一萬八千九百餘人あり、工業從事六百八十八萬二千六百餘人の中、六十八萬九千餘の婦人あり、家内勞働に從事する者百一萬五千餘人の中、七十九萬一千一百餘の婦人あり、工業に從事する者五百八十二萬九千八百餘人の中、二百十二萬九千六百餘の婦人ありと

女子議員の職業

フインランド女子議員の事は曾々本號の紙上に報じたるが、五月二十三日同國々民議會は第一回の議事を開き十九人の女子代議士は是に列し議會歷史の上に一新光彩を放ちたり、尚全議員數は二百人にして、社會黨は其七十の議席を占め居れり、斯くてフインランドの議會は世界中最も民主的たるの實を有せり、之れ三分の一の社會主義者と五分の一の女子議員を有するに依て明かなるのみならず女子議員の職業別を一見せば此事更らに明かなり、即ち十九名中七人は學校教師、三人は勞働者の妻君、一人は仕立屋、一人は織物業なり、レリアムベは曾て下婢より社會主義新聞の記者となり、今は婦人社會主義者の代表者として其中にあり、アレキサンドラ・グリペンベルヒはフインランド婦人運動の勇者にして、ライ子は社會改良の熱心なる運動家なり、尚ほ此外に農夫の妻君一人、牧師の妻君一人、及び良人と共に當選せし二人の妻君あり。

更に注意す可きはフインランド女子議員は單に男子の後へに伴隨せんが爲めに議會に入りたるにあらずして彼等は一定の政綱を掲げて進みつゝあり則ち（一）同一勞働に對して男子と平等の報酬を與ふると、（二）私生兒に普通兒童と同一の權利を認むると（三）結婚制度改正の如きは其主なるものなり。

斯してフインランドの女子は世界の婦人が傚ふ可き好模範を垂るゝものと謂ふ可し

尚ほグリペンベルヒ女史が萬國の一婦人雜誌に掲げたる論文を見るに、フインランドの女史が新たに獲得したる選舉權を如何に重要視せしかを知るに足るものあり、大抵の選舉區にて投票數は男子女子殆ど同數なりしもヘルシングフオルスに於ては男子一二、六一〇に對して女子は一六、九〇〇票を投じたり、又十八名の議員は一名は[illegible]黨、六名は少芬蘭黨に屬し、[illegible]三名は老芬蘭黨、[illegible]國民黨、[illegible]民主黨に屬せりと謂ふ

家内勞働者組合

ニユージーランドの女子勞働者は家内勞働者組合を組織したるが其第一の要求は下女の稱呼を一切廢止せしめ、傭主をして雇入の際組合の定むる要求を遵守す可き契約を差出さしむるにあり、今彼等の勞役は入料に區別せられ家事取締、夫人附添、保姆、料理女、洗濯女、臺所働き、小間使、下働き等にして組合の定むる規定に依れば、勞働時間は朝六時半より午後七時半迄で即ち十三時間の中、一日三回食時三十分及び午後一時間の休息を要し、木曜日は午後二時迄にて後も半日の休日、日曜日は午後二時迄で、其他の祭日は全日休暇が出されば特に一時間の志の割にて支拂ふ可し、其他空氣の流通完全なる寢室、不時は十時迄で、木曜日特に夜半迄の外出を許す等は重なる要求なり。日本の家庭勞働に從事せる女子は右の入種の勞役の全部又は少くとも過半を一人にて負擔する者少なからず、一日も早く此位の要求はなし得る程になりたき者也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日蓮上人の婦人觀

菊地松堂

佛教の婦人を蔑ろにする甚しいかな、正法念經は說いて曰く『女人の性は心に嫉妬多し、此因緣を以て女人は死して後に多く餓鬼趣中に生ず、美言有りと雖、心は毒害の如し』と、増一經に云く『女と交通する莫れ、また共に言語する勿れ』と、華嚴經は說いて曰く『女人は地獄の使なり、能く佛種子を斷ず外面は菩薩に似て內心は夜叉の如し』と、梵網經は更に說いて曰く『一長べきの甚しきは女人に過ぐるは無し蛇は一肉身を害す、女は法身を害す』と、佛教何ぞ女人に對することかく冷かなる、誠や諸經は無得道なり、法華一人只成佛す、法華經に龍女成佛論出で、婦人の面目始めて揚がれり、之を唱導し、之を提唱して一大獅子吼をなせるもの即ち日蓮上人其人なり日蓮上人は曰く

日蓮法華經より外の一切經を見候に女人とは成たくも候はず、或經には女人をば地獄の使と定められ、或經には大蛇と說れ、或經には曲れる木の如し、或經には佛の種をいれぬ者とこそ說れ候、佛法ならびに外典にも榮啓期と申せし者の三樂をうたひし中に無女樂と申て天地の中に女人と不生來ぬ樂と彼立候、わざはいは三女より起れりと定られて候に法華經ばかりに此經を持つ女人は一切の女人に過たるのみならず一切の男子に超えたりと見えて候

夫れ一切の有情には本覺の眞心あり、法性の妙理には染淨の二法あり、染法薰じて迷をなし、淨法薰じて悟をなす、悟れば佛界迷へば無明、法華經を持つの女人豈に男子に超えざらんや、されど法華經を持つの男子には從はざるべからず、されば日蓮上人は曰く

女と申す字はかゝると讀み候、藤の松にかゝり女の男にかゝるも今は左衞門殿を師とせさせ給て法華經へ導れさせ給へ

男を松にたとふべくんば女は以て蘿にたとえつべし、男の剛にして理性的なる、女の柔にして感情的なる是れぞしも自然の妙法とは云ふなり

瑞西の動物生理學者ツョー氏は曰く『男女の別は姙娠當時卵珠の成熟の段階の如何によりて決定せらる、卵珠の完全ならざる間に受胎したる胎兒は女性に成り、既に完全に成熟せる卵珠の受胎したるものは男性なり』と此說にして眞ならば男女の區別は全く卵珠形成狀態の成不成に在り、知るべし男女の區別は體格の强弱如何にありつることを、女は柔、男は剛、柔能く剛を制し、剛能く柔を扶く、こゝに於いて家庭の快樂や生せん、家庭の意味や生せん、日蓮上人は曰く

たゞ女房と酒うちのみて南無妙法蓮華經ととなへ給へ、苦をば苦とさとり、樂をば樂とひらき苦樂ともに思ひ合ひ南無妙法蓮華經とうちとなへさせ給へ、これあに自受法樂にあらずや

かくて女人の立脚地は明かなり、ある人の歌に曰く

樂しみは春の花見に秋の月
　夫婦仲よく三度食ふ飯

あゝ能くも詠びしぞや、富や位や、これ人の窮極快樂にはあらじ、夕顏棚の下涼み、いふせき賤の伏屋、そこにこそ眞の快樂は潛めるなり

靈魂に於て女人は一切の男子にも超ゆることを得也、日常の事、處世の道、藤の松にかゝる心を要せん、かくて男子は女子の慰制ありて家庭安く、その日〳〵の活動もなし得るなり、かくて第二の自己『永續の我』を求むべく生殖の聖業あり、日蓮上人曰く

女子は門をひらく、男は家をつぐ、日本國を知ても子なくは誰にかつがすべき財を大千にみちても子なくば誰にかゆづるべき、されば外典三千餘卷には子ある人を長者と云、內典五千餘卷には子なき人を貧人と云ふ

『女子は門をひらく』女子無くして何ぞ子あらん、『子なき人を貧人と云ふ』女子は子を生むものなり、生殖は永生なり、かるが故に結婚は神聖也

この故に戀愛は自由也、戀愛は神聖也、戀愛は決して濫淫にあらざるなり、結婚は決して淫慾の充足にあらざる也、俗謠に云はずや『そなたのやうなや、生んで川と云ふ字に寢て見たい』と是に於て戀愛は神聖也

生殖を目的とせざるの淫、之を邪淫と云ふ梵網經に戒めて曰く『淫を行して慈悲心無し、之を菩薩波羅夷罪となす』と、即ち之等邪淫を警めたるに存す、前の諸經また此意に外ならざる也、中庸に曰、『君子之道。造端乎夫婦。及其至也。察乎天地』と

一國の文野は家庭より起る、父は智を與へ母は德を授く、父の『永生の我』、母の『永生の我』、是によりて生ず、嗚呼人生は戰場也家庭は陣屋也、男女の意義思はざるべからず察せざるべからず

こぼれ葉　林孤峯

黄昏るゝ空に鳴きつる夕鴉
　塒求めむ木々の葉かげに
往く水の清くせゝらぐ墨田川
　百千の葉舟けぢめだになし
あさぼらけ明き光を身に浴びて
　急ぐ田吾作今朝も野良へと
泣く勿れ友よ三年の越し方を
　うき世の鎖誰かのがれん
長しへに我は怨まむ我君の
　水莖跡の淡れゆくをば

海內時事

●中尉の妻（實子を殺す）

鹿兒島縣人休職中尉向井良助の前妻いし子が芝區芝口二丁目の旅人宿越中屋にて、三女光枝を涙ながらに、絞殺したる顛末は都下の諸新聞紙の報道に依りて、既に御承知の事ならんが我等の怪訝に堪へざるは、諸新聞紙皆同一音に、いし子が憐れにも三女光枝を殺したるの慘狀に同情して、抑もいし子が、何の故に斯ゝる慘酷たる悲劇を演ずるに至りしかとの動機につきては、一言も筆を染めざりしことに候、夫良助なる者の行爲は、たしかに、いし子を死に致したる大罪人に候はずや、そは夫良助が常に語り居りし事に反して、郷里に土地家屋あるにも非ず甚だしきは世川に情婦もあり剩、いし子と結婚せしは重婚の罪むべき破倫を敢てしたるなりとの事に候、吾等はこれにつきても、左の歎なき能はず候、今日の年若き婦人が斯の如き悲慘の悲劇が現社會の裏面に藏れて居るのを知らず亦諸新聞紙とても是等の事實を報導するに、皆男子の側より觀察したる報導であつて亦斯の如き男子が多數なのであるから、其報導も女子に對して餘り同情を寄せない傾向があるといふ事を知らずに甘きホームをのみ欲望する事に候、或人に私に語られました、若し此悲劇が外國ならんには向井良助の如き輕薄破倫の男子には婦人間より一の懲戒を與ふべく斯る男子の他出を待ち受け、婦人團結して、其新聞紙を面前に抛げつけ、口々に詰責して、顏色なからしめ再び此輕薄男子をして世に立つ事が出來ぬ樣にするでしやうが惜哉の久しき屈從に第二の天性をなしたる日本婦人は、其身を殺しても、それを貞操と心得忍耐して居るのである、適々、いし子の如き悲劇を演じても僅々氣の毒などいふのみにて、其男子には何の制裁もないとは婦人の前途も憐しむべき事ではないか丁度政府の壓制に對しては、人民が奮起して之を矯めねばならぬ如く資本家の暴慾に對しては、勞働者が同盟罷工を以て報ひねばならぬ如く、男子の放縱に對しては婦人の反抗に待つより外はないのである、然るに不品行な夫を棄つる勇氣なき婦人は意氣地なき劣等女性と言いたい、そは、結婚の意味を解せずして、或は虛榮のため或は物慾のためにする結婚であつて、如何なる屈辱醜辱も甘んじて居るからである一言で誠に然り此のいし子の悲劇に、婦人自らの迷夢を覺醒するものなきは遺憾である、現時婦女の就職問題につき高論女子を云々して愚論を喋々するの徒、大に此向井いし子の身の上に鑑みざるべからず、嗚呼

悲慘なる谷中村

谷中村へは故に同志を作ふて參りましたが、破壞當時は丁度兇徒前で取り込みましたので、よう參りませんでしたが翌三日前急な用事が出來ましたので、或人達と人さ參りました、もう東京から[illegible]らうさてか、いつも十日森さか古河へ行く人が船を繫いで置いて呉れるのですが、其日は生憎皆が出て乘つて行つた人があると見へて、船がないので途方に暮れて居ましたら、[illegible]巡査さんが、どうで、我々も此の行するのだから私等の船に乘られたら宜いでしやうと、[illegible]らば貴方都合よしさ、[illegible]中野も丁度[illegible]旁々古河に一泊せられ、今朝出立せられしと、[illegible]出會い、こはそにひと共に同船して[illegible]船致し候、[illegible]しやうと笑じました木下氏と此問題につき[illegible]を御話し致せし[illegible]掲載致しましやう

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人道の光り那邊にか存す

細井吼蝇

曩に予は本誌第十一號誌上に、密航婦誘拐と題して殘忍酷薄なる誘拐者の所業を摘發せり、而してこれが巨魁たる元惡なる多田龜吉の罪惡に關し、其の一半を描き置きたり、彼が不可なる誘拐業者仲間に、神の如く崇敬畏怖せられつゝある一事は殆んど公然の秘密として世人の等しく認むる所たり然るに底來ぞ、彼は去る六月四日長崎地方裁判所に於て證據不充分の名の下に無罪を宣告せられたり。

あゝ、斯の如くにして法律の權威は地に墮し去れり、想ひ見よ彼は幾多良家の處女を誘拐し姦淫して恣まゝなる暴戻惡虐を働き剩さへ之を海外千里の異域に賣飛ばして淫慾の悲慘に絶するの窮地に陷入れ、已れは此等可憐の處女が、身も世もあらず光明なき常闇の地獄に悶へ悲しみて、腸引絞る血と涙とに會心の笑を洩へ、不正の財に肥え太り、口は甘美に飽き居は奢侈を盡し、傲岸の剛容を擧して、白晝社會の公道を濶歩し、恬乎として秋毫の愧づる色だになかりしに非ずや、彼の如きは寸時も社會に存在を許す可らざる人道の賊なり、人非人なり極惡人なり、暴兇漢なり、肉を啖ひ骨を醢にするも倘且つ慊らざる大罪人なり、懦夫れ彼にして社會に罪なしとせば、これやがて千百の多田龜吉を造る所以なり、證據の湮滅は如何なる非道も罪をなさゞる事を明やに指示する所以なり、敢て問ふ、斯くて人道の光り那邊にか存す。

元惡多田龜吉が逮捕せられたる段落的事實を左に記さんに、最初、本年一月二十二日ペライツボウに在住せる愛國婦人數名より我社(長崎新報社)へ宛て、去年十二月二十七日附の、血判をなせる哀訴狀の到着したる事なり、直ちに此を紙上に揭げしに、次で大坂朝日新聞、大坂毎日新聞、報知新聞等之を記載して痛く世論を喚起せり、(哀訴狀の一節は十一號本紙上に揭載しあり)こゝに於てか、當局者は倉皇狼狽を極め、直ちに元惡龜吉を門司市堀川町三丁目某酒店に於て逮捕したり、而かも龜吉の逮捕せられてより數十日を經たる後、爰に哀訴狀をものしたる愛國婦人數名より取消文來れり而して取消文と共に左の

龜吉の乾分より取消文に血判するに非れば死に致すと脅嚇せられ、悲憤骨髓に徹すれど止むなく取消文に血判する事とせり、この書狀を前後して、哀訴狀の取消文貴社に到着すべけれど、決して信を措き玉ふ事勿れ、妾等數名は、龜吉の乾分等に手籠に遇ひ目下幽閉せられたる身なれと、秘密にこの書を認むるを得たり、無事に貴社へ達すべきや否やは甚より測り知る可らざるも、兎も角も投函する手筈となり居れり云々

と記したる書狀來着せり、嗚!海波千里の異域にありて、正義の爲め、仁義の爲め、可憐なる密航婦の犧牲を訴へんと欲すれば慘惡なる脅嚇の魔の手は直ちに其口を緘し手足を縛し、以て、訴ふる事能はず叫ぶ事能はざらしめ、社會の暗黑面をして、益々陰々たる鬼火をして齊からしめんとす、噫!斯の如くにして從順なる者は侮辱せられ翫弄せられ、生血を吸はれ、遂に死に致さるゝも、社會は冥々瞑々之を審かにせず、却つて、誘拐、强姦、人身賣買の惡虐無道を極めたる人道の賊は、駟馬輕車に馳して揚々得意の色あらんとす、あゝこれをしも完全無缺の社會狀態と云ふべくや、敢て問ふ、人道の光り那邊にか存す。

聞說く、多田龜吉は不日ペライツボウに到り、哀訴狀をものしたる愛國婦人數名に對し、これが報復を圖らんとすと、惟ふに、所謂報復と稱するものは、殘酷なる體刑……或は死……を課せんとするもの、如し聞くだに身の毛の竪立つ慘虐事に非ずや。翻つて可憐なる密航婦の上を想ふ、淚潸々として巾を濕ほすかな、彼等は異鄉にありて遙かに故國を眺み果して如何の感想をや抱くらん、瞻望れば水天の間、渺茫として横はるものは雲か霞か、嗚呼懷かしの故國ぞいづれ、淚の眼に望めど遠く海波は森沒、濤聲岸を嚙んで永へに呪咀の響を絕たんとはせざるなり、あはれ見る影もなく蒼褪めたる其頰は、かつて潑々たる生氣を湛へて林檎色に榮えたる事ありき。淚に濕む其の瞳は、かつて前途洋々の希望を夢みて星の如く輝きたる事ありき。流涕嗚咽の下より微かに聞ゆる苦愁の呻きは、かつて雲雀の如く節面白く俚謠を唄ひし玉音に非ずや、敢て問ふ、彼等に何の犯せる罪ありや、罪ありや、彼等は率直なりき、至純なりき、朴訥なりき、古語に曰く、道を以てすれば孔子も欺かると、偽りの罠に陷りしは彼の罪にあらざるなり、嗚呼、鬼の如き爪を光けらかしたる蛇の如き心根の多田龜吉は無罪を宣告せられて白日青天の身となり、之が爲めに骨を削られ肉を殺がれ血を啜られたる幾千の處女は血淚に咽びて地獄道に彷徨しつゝあり、重ねて問ふ、人道の光り那邊にか存す。

男女愛情の心理的見解

林孤春

近來男女兩性戀愛の自由に關し物議頗りに勃發せるが如し、然かも如何にして自由ならざるべからざるか、原因は如何に、理由は如何にて質せんか彼等は多く其生殖器に關する論駁を專にし其心理的見解を以て自由戀愛の一大眞理を表示せしもの未だ其數僅少たるかの感あり就中現今の社會主義者間に於ては主として生理的見解而已に汲々たるを見る、然りと雖も吾人社會主義者たるもの又其心理的見解を忽諸に附するには非ず只其止むなかりしためなり

吾人久しく心理的戀愛を主張せり生理的戀愛の非なるには非れ共、特に吾人一派の主義者は之れに與する能はざるなり故に吾人は以下身不肖を顧みず些か論ずる處あらんと欲す乞ふ幸に諒せよ

戀愛に二種あり一は生理的愛情にして、一は情緒的愛情なりとす、蓋し愛情とは喜悅柔和等の諸情緒が相合同して生起せる複雜なるものにして其始めは男女兩性に起り次第に外界の諸事物に迄で推及せるなり今生理的愛情及び情緒的愛情に關し少しく詳述せしめよ

一、生理的愛情

生理的愛情は一定の發達を遂げし動物及び人類に現るゝ根本的のものにして、單に一方の異性が自己の性慾を滿足せしめんが爲めに起れる引力なり、例へば青春の青年が嫋娜妍の美人に接する時、青年胸裡に炎ゆる情慾の猛火のよく青年の精神を燃燒し只如何にかして自己の性慾を滿足せしめんとの情溢れ遂に一個の合矢と化して、美人の胸間に飛ぶ之れ即ち生理的愛情なりとす世の往々戀愛自由論を主唱し之れが實行の結果墮落、斯落、自殺等悲慘なる境遇に陷りし者大概如上生理的愛情の甘露に溶解せられし徒而已、勿論現時に於ける社會組織の弊害與つて力大なれとも一面には吾人は彼等に對し充分心理的愛情の清淨なる活泉を指敎する餘地の存する事を認むる者なり

二、情緒的愛情

情緒的愛情は即ち意識的愛情にして此階級に於ては兩性間に於ても互に撰擇するなり、之は只性慾の滿足には非ずして、之に加ふるに或る柔和なる情を以てせし者なり同情より起る愛情も又此段階に屬す、此種の愛情は神聖にして且つ不自由なるを好まず男女間に於ける戀愛は一に此範圍に於て敢行すべきものにして、吾人が主唱する戀愛の自由又此處に存するなり例を以て之れを見ん歟、紅顏の美少年、互に其精神を同ふせる窈窕なる梅子孃と常に相會し、互に將來を語り死生を俱にせんと契ひ居て一點淫亂の存する處なきにも係らず、頑迷不靈なる二人の兩親は之れを拒み、搗て加へて梅子孃は某富豪の邸に嫁すべく勸誘せらるゝが如き場合に當り、吾人は其如何に双親の承諾結婚が孝道なりと說くも其時こそ彼等は戀愛の自由を敢行すべきなり吾曹の精神は區々たる親權の爲めに拘束せらるべからず、自由たるべきなればなり、然かも心理的見解よりも最も完全にして且美なるは、同情より惹起する處の戀愛なりとす、(情緒の中に入る)詩學某曰く Ambirism melts [illegible] love. と逍遙氏釋して『憐むる心のいつしかに、戀ふる心と打ち溶くる』とせしはげに其當を得たりと謂つべきなり

戀愛の一面已に情緒より來る事は述べたり故に今少しく其要素たる同情に就て論せん同情も之れを區別して三個となす、生理的同情、心理的同情、及知力的同情即ち之なり(愛情にも知力的段階あれ共省きたり)其中今は心理的の分而已を述べ他は後日機を得て評論すべし、

心理的同情は一に意識的同情とも云ふ之れは二人以上の人の間に類似の情緒的態度を生ずる作用なり此同情を更に二ッの段階に分つを得即

(イ)心理的調和と云ふものにして吾人が他人の心を悟り得る時其意識上に現なる情緒的事實の反射するを云ふ、

(ロ)通常の意味にて云ふ處の同情で心理的調和に加ふるに柔和の情を以てせしものなり慈愛憐憫の情等即ち之れなり

同情に就ての大要如斯未だ精細に說明し能はざるも吾人が名附けて神聖也、自由也となす戀愛に就ては略其の要を說し畢を信ず、尙は目下研究中に屬す婦人論を記載し敬愛する諸姉の銷夏机上の慰に供せんと欲す、乞ふ次號を待たれよ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

農家と理科（五）

増田操

何處の山も原も樹々の若芽は青葉となり沃野千里麥も蠶も貢熟した、二三の農夫が手拭の頬被り筒袖てふ扮裝、右手に鎌を携へ麥畑の畔を歩みながら此の間の風雨で黒穗も何所へか散つて穗の中軸のみとなつた今年は如何なる年柄なるか田五作との、畑にも黒穗が見へるこれでは收穫の豫想も違ふだらふなど互に語りつゝあつたア、此の農夫は黒穗が一種の病菌なるを知らざるよふである、麥の黒穗には數種あるも皆一種病菌の寄生するものにして彼の黒色なる粉狀の如きものは實に此の黴菌の胞子即ち種である胞子が或は雨に流され或は風に飛され健全なる穗に附着し或は開花の時其花の中に落ち籾に包まるゝなどあつて遂にこの病源となるのである斯の如く此の病源や主として種子にあるものなれば種子を撰擇すべきは勿論病菌豫防法を講ずるにあらざれば年々歳々多少の被害は免れ難い

大麥や裸麥の黒穗に二種ある、堅黒穗、裸黒穗と云ふ、堅黒穗とは其穗の形なりに堅く固まりて胞子が飛散することが少ない、其外面は白き皮を被りありて雨風などに曝され薄膜の破れて黒粉が出るのである、又裸黒穗は其黒穗の現はるゝや如何ならずして黒粉が飛ぶ性あり若し風雨に逢へば恐く黒粉飛散し穗の中軸のみとなる此種は黒穗菌中最も普通にして彼の農夫が語れるは此の種である

小麥の黒穗に三種ある腥黒穗、稈黒穗、小麥黒穗と云ふ、腥黒穗は種子のみを侵すものなれば穗の外觀上より見る時は健全の穗と異なる所がない、唯被害穗の粒が普通のものに比すれば稍や大きく其形不正にして其粒の内部に濃褐色の粉ありて腥き臭氣がある故に腥黒穗と名くるのである、又稈黒穗とは小麥の稈葉を侵すものにして初め其稈に薄黒き纎線が幾條となく現はれて後ち其部分が破れて黒粉を飛散するものである、更らに又小麥黒穗とは彼の裸黒穗の如く其胞子飛び易しと雖とも胞子の色は裸黒穗と異なり少しく黄褐色を帶ぶ何れもこんな工合に病菌が麥類の種子に附着するに原因するものなれば此病菌即ち黒穗のなかりし麥畑より種子を採收すれば全然病菌の發生することがない、故に黒穗の既に發生したる時、其胞子の飛散せざる前に於て其穗を拔きてこれを燒却し又この病毒に侵されたるものは其粒が輕いものであるから鹽水撰を行ひて病粒を除けば發生することも稀れである、去れどこの拔き取ることを怠り或は其時期を失したる塲合若くは隣畑に數多の病穗發生したる塲合或は他より交換又は種子を購入したる時など別に豫防の方策を講せねばならぬ、其簡便にして而も成績の確實なるものを擧ぐれば温湯浸法である、けれども堅黒穗、腥黒穗、稈黒穗には有効なれど尚ほ裸黒穗、小麥黒穗には其效がない、兎に角麥粒に附着する病菌を殺す爲に華氏百三十度の温湯の中に五分時間病粒を浸漬するのである此法を行ふには先づ大いなる二個の桶を備へ一は華氏百二十度許の温湯とし先づ麥粒を叺に入れたる儘これに浸し而して後ち一の桶に百三十度の温湯を置きこれに五分時間浸すのである斯の如く二桶の温湯を要する所以のものは此法の主要たる常に百三十度の温を誤らざるを期するものにして一の桶として百三十度の温を保たしめんとするには麥粒は低温なるものなれば其温湯の温度を減する恐れあり故に先づ百二十度許の温湯に投して温度を平均ならしむるものである既に浸湯し終れば筵などに擴げ乾燥すればそれで好いのである

裸黒穗、小麥黒穗は前法にては到底撲滅の効なきを以て先づ麥粒を六時間許普通の冷水に浸して後ち前法に依り百三十度の温湯に浸せば殺滅することを得るものである此法は凡ろ各種の黒穗病に應用すべきものなれば少しく手數を要すれとも最も完全にして其利多し農家の事情の許す限り此法を行へば好いであらふ

東北地方の婦人（承前）

門田稻葉

△教育は無用

近年に至つてこそ、女學校に就いて、教育を受くるものがあるが、此地方一般の父兄は、女子に教育は無用だといつて居たのである。小學校時代に、非常に成績の好い、才媛の譽れ高かつた女子の父兄に對して、元の受持教員や校長が、女學校に入學せしむるやうに、勸誘でもしようものならば、不信任を持出されるやうな始末であつた。されば一寸十里も距つたところの、女學校に入學させるに、海外へでも行くやうな氣で、親族會議を開いたり、熟考の爲に娘の年を腐らかすのであつた。五六年以來は、餘程に進歩して來たが、それでも福島縣の高等女學校などには、二百名足らずの生徒があるのみである。仙臺市には公私の女學校が、十校ばかりあつて、何れも相應の生徒を有して居るが、其中に他府縣人があるのと、技藝專門の學校があるが、仙臺市は、東北での學淵といふても差支なく、隨つて比較的他の地方よりも進歩して居る。義務教育は、何んな歩合になつて居るか、統計して見ないから、一寸明かに云ふことが出來ないが、商人の娘は學問が要らぬとか、百姓の娘は沒字碑でも好い、と云ふて居たのが、遂い此頃のことであるから、何んなに就學督勵しても、さうは進歩しない。せつば詰つて學籍をおいても、出席歩合は何うであらうかと云ふても、考へなければならぬのである。斯んな譯で年寄も、若い女も、概して無教育の者が多い。小學校などで、父兄懇話會の機會を利用して、無學なる父兄を教育して居るのである。それで今の娘達が、母となる頃でなければ、見つともない風俗や、惡い習慣が匡正することも六ケしいであらうと云ふ人がある。

△不通の言語

東北人の言語が、明瞭を缺き、訛語の多いことは、世の人の既に知る所である。知人牛谷洲壽翁の著「將來之東北」に曰く

東北人の他方に出で、第一に困難を受くるは言語の不異なるに在り。又東北人が他方に出で、實際社會に立つに困難を感ずるは言語の不完分なるに在り。殊に東北婦人の他方に出づるを厭嫌するには、全く其言語の不完分にして苦痛を感ずるの甚だしきが爲めなり、云々。

斯の如く、東北人の言語は、東北人の間に於て、一問題となつて居る、又小學校でも發音の矯正して居るが、固より完全を期し得ないのである。昔し米澤藩で言語矯正の目的で、教師を聘したが、數年を出でずして、其教師の言葉が米澤化されたといふ滑稽な話しがある。

東北人といへば、直ぐにズー／＼かといふがズー／＼は仙臺に限つて居る。南部のゼイノ／＼、最上のゴンダなど、地方によつて別々である、就中、宮城縣人の言葉は矯正し難いのである。岩手、秋田の兩縣は、宮城に比すれば好く、福島縣は、茨城、群馬、栃木に接近した山地が好い。併し、牛谷翁がいはるゝ如く、何れも交際語でない、不通の言語である。日本人が同じ日本人の言葉に通譯を要するとは、何事である。諸姉は左の言葉を解し得るか。

1 コノ、ヒダイ、ナニ、ナヤヤガルンダ。

2 ゼイ、ウナ、アイナサンノ、オダイヤツ、トアメか。

恐くは、何事であるかを、解し得ないであらう。（一）は『此娘には困つちもうね』の意、（二）は「お前は阿兄さんの錢を取つて」の意である。

福島縣相馬地方では、兄を「あつこ」姉を『あんちや』お出なさいを「いあ一ペー」物の極めて多きことを「がい」御子供を「じやい／＼」嘘を「でま」涙を「なだみ」交換するを「ばくる」仕樣なきを「ぴしようない」言はないを「やない」終始を「ややペー、やつぺし」など云ふて居る。斯んな單語ですら、容易に、否絶對に解し得ないのであるから、これで、綴られたる言語は、何んな人でも判りやうがない。

孤堂日録

睦　澤

五月廿七日大久保よりの歸りに四谷八百屋に立ち寄つた。此の八百屋、此の店前より出て來たので隨分奇稀な變態を通る事のりとか、今日も其の一である。後に續いて奧様然たる一婦人の『小松菜と』云へば其店の小僧君、大に氣轉を利かした積りで、『小松菜？あります、飛び切りの上等ですよ』。小松菜の飛び切り上等は蓋し之れを以て嚆矢となす。

五月廿八日　小さき家の中より無邊の天地を見るは、大きな家に四壁を塞らして酒と肉との小天地に蹐り付くよりも、より大なる生活を營むやうな心地がする。何事も同じだ。兒童教育の大戰を俟つて一個の專教員たるは或る點士達よりは偉い。無聞たる一材長と雖とも名利に趨る天下の大政治屋よりは確に偉い。偉凡の自信の有無如何に依つて別ると友は云つた。其の眞意義を解するものには常に心中偉大なり。吾人小なりと雖とも大なり（つゞく）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小説　**詩繪圖**

（上）

谷尾水渓

庚申町を出放れて車の駐屯所の前迄來ると車が止まつて、キラ〳〵光る麥藁帽を前下りに被つた、鼠色の合服の男が飛び下車た、金縁の眼鏡をキラ〳〵光らして櫻のステッキを振りつゝ、サッ〳〵と行き掛けたが一寸と立止まつて車夫を横平に呼ぶ、車夫は唐臼のお化けの様に頭をピョコ〳〵下げて戀て空車を曳いて元來た方面に驅けて行つた。

四つ角の處で同じ年頃の男が來た、兩方が一寸目禮して親し氣に連立つて歩行き出した、●

『オイ宇佐見！君は僕に知らさない積りかね、

『何を？

『何をつてしらつぱくれても駄目だよ、蛇の道は蛇だからね、尋常に白狀するサ、

『何を白狀するんだ？

『人を莫伽にせぬがよいよ、オイ宇佐美、ヨセ〳〵罪造りは、君の妻君はヒステリーを起して居るじやないか、何を苦しんであんな眞似をするんだ、

『之れはお言葉だね、君は夫れで聖人君子とでも言うのかね、お琴稻荷への日參は如何でげすな。

『アヘゝ……そう出られては仕様がないね、然し眞面目だよ、今の噺しは第一僕に内證とは君に似ぬじやないか。

『何をそんなに屁理屈を云うのだよ、

『屁理屈？之れが？千代浦綾子……對宇佐見の狂熱！之れが屁理屈か！

『フフ何所から聞いたのだ、

『フフが面白い！わの佻氣ない罪のない神様見た様な綾さんを而も妻胎者の君が口説くとは耳よりだからね、

『最う何も角も聞ひたのか？

『否……別に委しくも知らんさ、而し去んぬる六日の夜、早や東雲と明くる頃傳吉茶屋の裏戸より、手に手を取つて男と女、寐亂れ髪をかき上げ〳〵

『オイ〳〵そんな聲色を使はんでもよいさ、……夫れじや白狀するさ、

『アハゝ弱い奴だ、夫れで愈々手に入れたのかね、

『中々、まだ〳〵前途遼遠さ、傳吉で此間餘程甘く持ち込んだがね、どうも母親がどうの妹がどうのとぬかして容易に承諾せぬのだよ、幸い母親が病氣して居るのだからきやつ藥代に困つてやがる、……僕は親切でかしに金を呉れて遣るのさ、でも容易に取らぬので閉口さ、

『而し可憐想だねー、正か君がキャツを遊んで遣らふと云ふ腹案たる事を知るまいからね。

『勿論さ、非常に難有がつてね、泣くんだよ、僕は實は性は善也だから泣かれて見ると容易に手が出せんのさ、後ちに考へて見て餘りに意久地がなかつたと一人焦れるのさ、

『お目度いね、少々、アハゝ、而し、そんな際どい處迄持ち込んだら大丈夫だ、今晩前祝位よささうだね、

『ウ、最う大丈夫さ、キャツ今晩傳吉に來て母の容體を報告する筈さ、

『面白いね、……處で照治の方はどう始末したかね、

『困つたよあいつには、終にあの儘さ、家の先生嗅ぎ出したんだらう、一時實に危うかつたが而し、今じやまづ一寸靜肅に歸した、

『それで矢張行くのかね、

『行くさ、行かなくちや收まらないもの！

『オイ〳〵來た〳〵綾子が來た！　奇麗だねー矢張りそんなに襟を正さんかつていゝじやないか、

（中）

東京双子の袷に迷仙の羽織を被て、藥瓶を手に、はら〳〵した廂髪、丸貌の色の白い、目のパッチリした、口元の堅く締つた、高い、鼻の頬が太つた、可愛らしい、廿前後の娘、うつむし勝ちに小刻みに歩行て來る、例の二人の男は無言で横平に歩行いて行く

片側はお寺斗りで片側は棟割長屋、子を脊負つた神様や、煤手拭を被つたお婆さんなどがゾロ〳〵と往來する、向うの寺の門前で、烟管のラフを仕替る男が一人、此方の駄菓子屋で何か買つて居る小僧さんが一人其隣りの豆腐屋の神さんが手桶の水を手ですくつては大道に撒いて居る。

『ヤア綾さん？と宇佐見が呼んだ、娘は驚いた如うに顔を揚げて目禮した、連れの男も一寸帽を取つて挨拶する、

『此間は失禮致しまして

と娘が遠慮らしい聲、

『否……僕こそ、……其後お母様は

『ヘイ大變お影で工合がよく成りまして、折角御知らせする筈で御座います

『ホウ左様かね、……夫れは安心だ、……然し時候が不順だから餘程注意せんといかんね

『ヘア有難う御座い升、……病院でも此處一週日の内には餘程よく成るからとの事で

『フウ、否や夫れで僕も少は安心した折角人を出して見によこそうかと思ふて居た

『有難う御座います、

『をや禮を云はんでもよいです、僕は君の兄さんが達者な時に非常に中をよくした朋友なんだから、無論僕の及ぶ限りは力に成る積りだからね、

『ハイ……

『夫れて、此間云うた通り外の心易い醫者にもよく病勢を噺して見たよ、……

『ソウで御座いますか、何から何までお迷惑を掛けまして、

『否やそんな事はない、が然し此處は往來だから……エー何れ一寸今晩傳吉へ來るでしよう、

『ヘイ實は參ります積りで御座いましたが此處でお目に懸りましたから、態々夫れ而巳で傳吉へお越しくださるのも御迷惑ですから、又明日でも參りまして

『イヤナニそんな心配は入らない、どうせ此の方に用事があるから夫れじや是非來てください、今晩九時迄には來て居るからね

『ヘイ……實は今晩妹が社の宿直番で御座いますので……何で御座いますが……然し何とか繰合せます事に致しまして、

『ヘア是非左様してください、折角稍々心配して置いたのだから。折角のいや折角お母様の御病氣がよい方だと云ふ眞際だからね、

『ハア……

とうつむく、一人の男はしきりに横目で娘の顔を睨む

駄菓子を買つた小僧が不審想に立ち止まつて噺しを聞く、ラヲのすげ替先生がキヨロ〳〵眼で此方を見る。

（下）

紫檀の鏡臺に二八水が一瓶、夫れが化粧箪笥の上に積まれて、机の上には主人の寫眞挾み、床には菖蒲が生けられて誰れかの浮世繪の軸、其處に年の頃は廿五六の奥様、色の蒼白い、少しく頬の瘦せた神經質な、眼のキラ〳〵光る夫れでも鼻と云ひ口元と云ひ何となく品のある、髪は亂れた儘で、黄八丈の寐衣の裏の赤いのを着て、白と紫の染分けのしごき、しだらない風彩、夜具を二つに折つて後ろに積み敷布團の上に膝をすぼめて居つて、枕元に青春の寐の零、煙草盆等が不規則に置いてある、客は少しく太つた、脊の高い、一寸髯の生へた男、ネルの單衣に五つ紋の羽織を輕く着て、右の手を膝に突き張つて、左の手で卷煙草を吹かして居る、年は卅前後、時々嫌に笑ふのが癖らしい、

『宇佐見君には稍々僕から忠告したですよけれども少しも入れないです、貴女の前で申上げるのも變ですけれども、實は朋友の僕などが稍々な批評を受けるものですからね

『御迷惑ねー、横尾さん少しは同情してくださいよ、何時も〳〵之れですよ私しだつて無教育の女とは異うんですもの、そんなに迷惑ないさかいもしませんですけど、餘りですね……私し一層死んだ方が良人の方もよいし私しもよいと思ひますの！

『而し死ぬるなんかはいけません、此上は貴女がしつかりして宇佐美君をお諌めなさらなきあならないんですもの、

『駄目よ、幾ら私しが申ましても、夫れは皆、やきもちだとか、五月蠅とか申ます而巳ですもの、……貴郞、繁夫も最う今年七つに成るのですよ。私し考へて見ると眞個にくやしくつてね

『お察し申ます、……照治の方も未だ始末が付かないんですつてね、……

『そうですよ、……私しには奇麗な事を申て居るのですよ、私しもう死ぬるより外はないと思ひますわ、

『困るなーそんな事を仰有つちや……而し御道理です……亦親御が御ありになると此様に迄はないでしようけども

『駄目ですよ、親が云つたつて誰れが言つたつて聞くものですか、ねー横尾様私しですから、私しの力に成つてくださいよ、

『夫れはもう御力に成りますよ、

（七頁につゞく）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社友の消息

落花の雪にふみ迷ふ交野のはるも、いまは早や緑りいろこき夏とは化し申候いまだ拜顔の光榮はえずとても、貴姉の君の御芳名は吉野秋民兄より、くれ／＼も承り、唯一なつかしく存じ居り候昨夏以來亂書呈し御機嫌御伺ひ申さんとの思は瞬裡をさらざるも波瀾多きあだし世の事とて世事往々まゝならず、はては本意なくも今日に及び申候愛慕なる姉の君はつゝがなく社會を的に御奮闘なし給ふよし朝夕うれしく神願し在候妾は昨春當地柳川高等女學校をへし恩妹にて候が卒後の方針を東都に立てんとて其が準備中いまだ遂せざるに破壞の濁浪は逆まき來つて望の光はなんなくつゝ消され候折角のたのしみし其望はあだし露とはきえ失せぬ、あらかなし姉よ、我希望はむなしくなりぬ、前事昔夢の如し、アゝされ共貴姉よ、我はまた此の大なる教訓によりてまた更に新たなる望みの光はともされぬ、僅に一星霜日尚淺しと雖ども此の間にわたへ給へる神の大試錬は實に我將來の大光明を與へ給ひぬ、我は徒らに悲しまざりき感謝を以てむかへりき、しかもいま又た更に給ふべきものを亡ぼし更に新たなる生命を給ふ猜疑度々來つて、いまはたゞ己を失ふ、貴姉よ、願くば祈り給へされど我希望はいまはやむなし、人の妻たらんとする希望はまたも是に空く失せぬ、さはいへ天命よた何を以てか殺さん我は生涯妻たるを能はず、たゞ萬民の犧牲たらん大望を此際に決して天命に委せんのみ、我は此決心を與へ給ふ神に深く謝せり、社會を的に戰ふにも係累なきはこよなき自由婦女子の義務は盡さずとも永き社會の犧牲として此世を送り申さば萬分の一の罪ほろぼし神も許めはし給ふまじ

霧中の彷徨のそれの如くにて候がソシアリズムの福音に接しはじめて靑天春野をかよふ心地と相成り、ひたすら秋民兄の膝下に在つて社會主義の研究に心をくだき、急務の急なる我等女權なきをかなしみ、其よりは往々主義者の方々と交りのいとぐちをひらき地方の社會問題開演には一度ならで參會の榮をえ、はづかしながらも婦人問題を述べ女權を擴論いたし將た懸侔さへもかへりみるのいとまなくて紙上に氣焰をはきなとして可惜、三十九年も夢の間に打過ぎ明けなば更に歩をすゝめて筆上の戰場に火花をちらさんといなみしまでの甲斐なくて人生の大敵なる病魔の鬪說の悲しき身となり、天うらゝかに人は皆笑ひ興ずる春の日も、妾は只無常の恨をのみ通過いたし候されど今早健康も元に復し申候へば、いざやこれより、都門に入りて姉の君方々の御指導のもとに、あはれ淪沈のふちに沈吟せる我姉妹のために花々しくにえとなりいさゝか人道に貢献せん覺悟に御座候まゝ何卒手をだづさへ給ひ、一層正義の道に誘ひ行きたまはんを、一生の御願ひに候花ごせにかゝやく星を友としたる井の中の蛙ながらも社會の面をみますればムラ／＼と起り來るは人生問題の解決婦人の無能、アゝ思ひうかぶるだに潸々たる淚は久につきざるべし悲慘なる日本婦女子の地位、いかにしても思想の卒だになさでやむべきことにもあらねば文さへつまらぬ粗末なしかも田舍者の身もかへりみるなく大膽に姉の君にたいし亂書を呈せし次第失禮なるふるまひのみ致し御立腹の程恐入申候何とぞあしからず御許容被下度候

御指導なしたまはんこの御懇志なればいかに本望をとげうれしく存じ申さん者、姉上の（妾の半生涯）の玉書も幾度となく熟讀いたしアヽレ回想せば恐おゝくも姉の君と對等の歷史を持つ妾のけふの境遇何一層したはしく飛遊の術の我あらばなつかしの御姉上の御許に遠くとび行きてすがるゝ姉の御許に御手にすがり思ひの丈をとげ度くと終日口惜しのなみだに袂をうるほし居り候健康をもて悅てりとせし身もうたてや空閑かたるに人なしかへり見ば實にも不幸なる十九年………ふかき憂とかなしみにくもりがちなる己が身の胸のはる、はいつなるか病めるうらかげ地に引ひて一人庭面にたゝずめば東天のそらぞいとゞ偲ばれぬ、仰げば雲間にかゝる朧げの月はうき川の定めなき習ひをかこつかはの色アゝ何すれぞ幸うすき我身我世であるものぞ許し給へ過ぎし悲哀の歷史はひもとかじ／＼さはいへ今は早や理想の光はともされぬ／＼

アゝうれし早く東都にまゐり度う御座いますの、早く行いて姉の君とこがるゝ御話しが仕度い、うしとやいへる夢の世渡りてふ鎖りにからまれて、泣いて／＼己が望みの梶も折らなくてはならない、なんとてーいやな世ですこと、アゝ浮雲は月をさえぎり夜風は花をねたむは天の約束といふべきにやとかくはやく行いて思ふまゝに活動がいたし度う御座います、人にふまれし野の花も露の情けによみかへり日陰の花も春來れば花咲き匂ふ、……

遠からず中いかなる迫害も切ぬけて上京の途につきます、切望手を引いて下さいませ、隨分と御先輩のズムですもの、

昨夏以來光風も望みちたどる私の身に取りてはこよなき一つのともし火として愛讀いたしてゐましたなれど、惜しいかな、光の誠はこぼたれぬ、一九〇六年の冬十二月廿五日の終刊の新紙を手にしたる妾の胸裡はどんな感じがいたしましたでせう、しかし更に大なる戰場にふもむかんとての事と承けたまはりてはとゞろく胸もしづまりて一日も早く花々しき戰ひをなされて給ふ日を千秋の思してゐましたなれど……東都の風物いかゞで御座いますか、地方に於ひては、まだ女權とか社會主義とか申しますれば幾ちきりんのかはじして突飛とか生意氣といつてますけど靑年男女間には餘ほど目も覺醒されています、同志の君のそゝがれし血さ淚は深く注入されつゝあります當地等も此處二三ケ年も致しましたらよほどうまい實がみのるだらうとうれしく思ふてゐるので御座います、一種の動機性となつて盛んに感染されつゝあるのです

妾は只今病後の攝生として遙々たる柳川の風水に空しく日をすごし居候なれどあまりなすことなくて貴重のタイムを過すの口惜しくてかたはら今日は久留米古山劍風の經營にかゝる久留米週報に筆をけがし居候何卒わはれと思召したまひ向後永久に御交際にわづかり度く何御文通を希ひ奉り候まだ種々御話し申度きは山々御座候へども紙意にまかせず之にて擱筆仕り度候餘は後日再便に申上ぐべく候

うらさびしき庭園の蓮葉にとんで妾戀ふ姉のこゑをきゝつゝはるか東天の姉の君の健康を祈る

右は未見の社友安徳秋月女子の書翰なり

○開沼蘆洋氏より

御姉上樣よ　御懇篤なる御書面に接して泣かんばかりに嬉ふ御座います、それは僕に取りてのことであると思ひます、一面識もない何處の馬の骨だか又如何なる敵であるかもわからないものゝ手紙に對して斯くまで隔なき親しき御返書を下さるとは實に姉上樣の豪氣所謂淸濁合せ飲むと云ふ大度胸敬服の外ありません

姉上樣には先月中御病氣であらせられたぞのことですが今は御快方に向はせられて亦御活動の由、神の惠、神の御護りの益深く加へられて永く健全に御働きなし下されんことを祈ります、石川兄へ僕の厚意御傳へ被下との由、有り難く存じます、御雜誌紙面熱烈燃ゆるが如き、覇氣滿々たる姉上樣にして此の誌ありと感じました、層一層道の爲め御筆鋒を振はれんことを願ひます

（以下略）

（六頁よりのつゞき）

『ねーきつと？………横尾樣ねー

『貴女は今晩何處に行つたのか御存じですか、

『照治の處でしよう

『照治？照治處じやないです、私しまだお話ししませんがね、………否や申ますまい………御心配を掛る斗りだから

『エ………まだ外に？………横尾樣仰有つてくださいねー横尾樣………

『申ます而し、貴方は御信じなさいますまい、僕より宇佐美君をお信じなさるでしよう、？

『そんな事はありませんよ。私し何も角も貴郎に申上げて居るでは御座いませんか………ねー横尾樣私しは最う御力に思ふのは貴郎御一人ですもの、………ねーどんな御言葉でもそむきませんよ、………仰有つてください………

『而し、此樣な事を申上げて萬一それが僕の口から貴女にお知らせしたと云う事が宇佐見君に知れて御覽なさい、僕と友情を破るのみでなく、非常な恨みを受けなくてはなりません………ですから貴女が宇佐美君以上に僕を信じてくださいません事には御咄しが出來ないです、

『夫れは最う先刻も申上ました通りです、ねー横尾樣、後生ですから、ねー横尾樣。

と布團の上より膝を乘り出す、横尾の瞳は妙に輝いた、

『夫れじや、貴女は僕を信じてくださいますか、宇佐美君より、より以上に

『は………

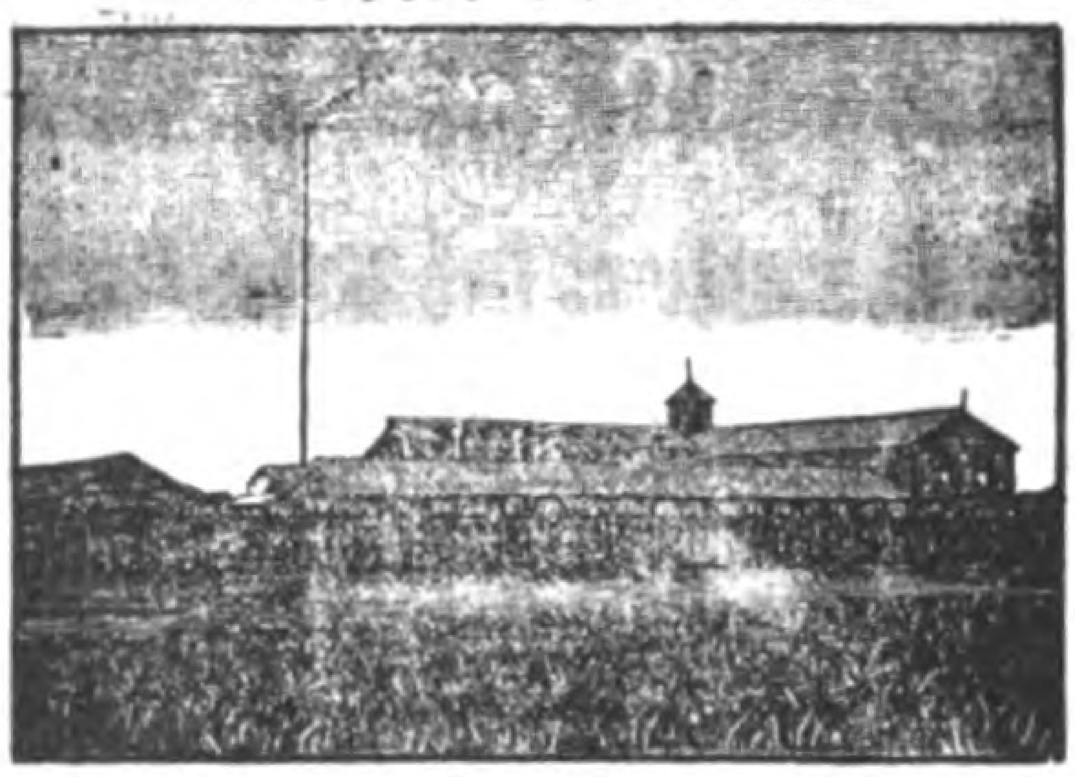
と女はうつむく

化粧箪笥の上の時計がヂャギごと時間を響く。枕ばかりの洋燈の玉管が朧に八疊の間を照して居る。

（完）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

松本風琴割引券



有効期限 四十年七月末日迄

本社は東京博覽會紀念を兼ね本社工場完成祝賀の印として此券特參或は郵送の方には本社製風琴壹割引にて販賣す

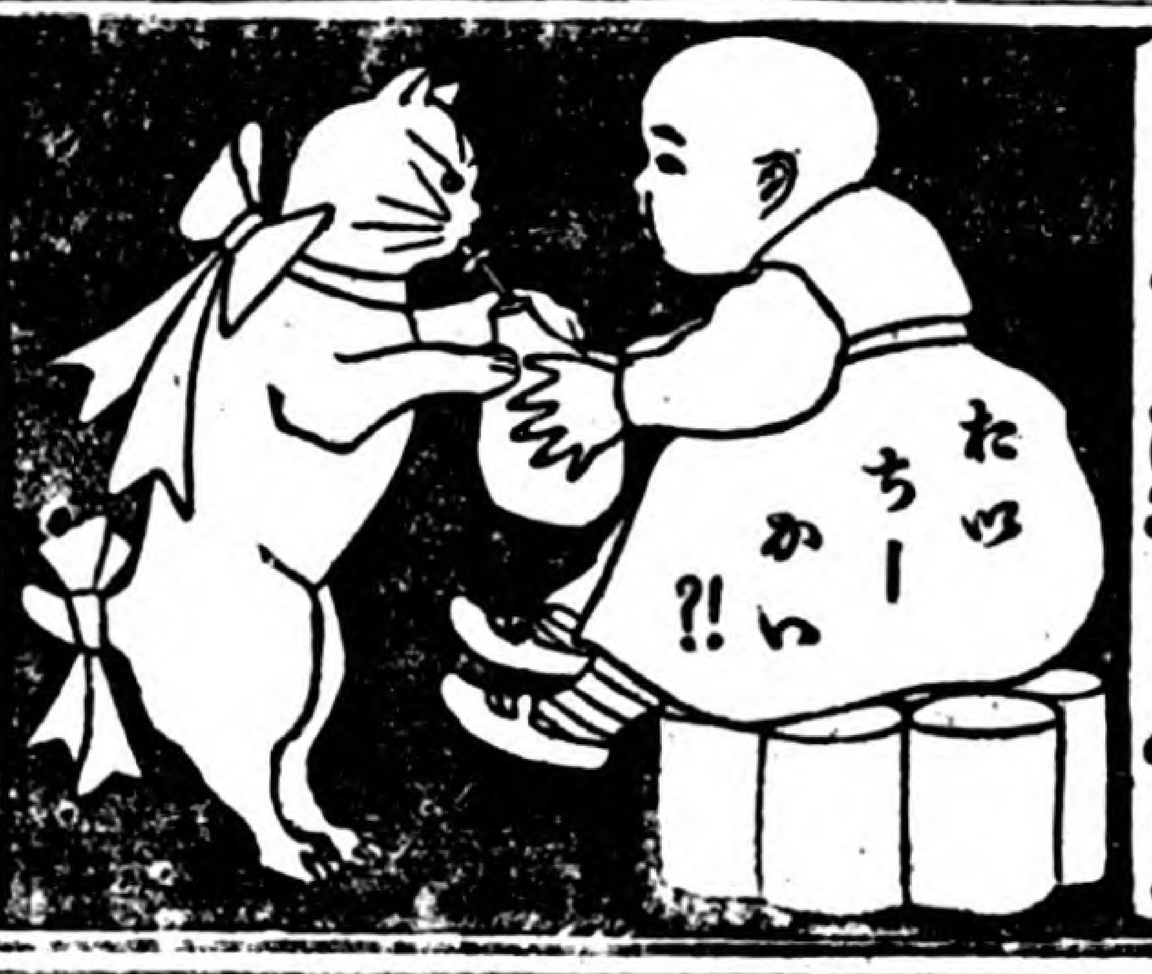
松本樂器合資會社 ピアノオルガン製造所
東京市京橋區月島西仲通九丁目五番地

販賣部
東京市京橋區銀座四丁目四番地
松本樂器合資會社
電話新橋二二九八番

應需肖像畫
神田美土代町二丁目一番地
浦田烏城

時代の要求により生れたるカメリヤは色白くきめを細かに艶を増し肌を滑かならしむる最新最良の洗粉なり年若き方々のみならず老年の御肌には殊に効驗著し
定價 大瓶廿五錢 瓶入十二錢
袋入五錢 小袋三錢

伊豆三島 花島煉乳場製
名聲ある
金鶏ミルク



發賣元 東京市日本橋區大傳馬町
逸見山陽堂
（電話浪花二一五番）
（振替貯金口座三九六番）

社會主義夏期講習會
△八月一日より十日間、午後七時より十時迄
△九段坂下ユニバアサリスト教會に於て
△會費八十錢

學課	講師
一社會主義史（四時間）	堺利彥
一進化論（二時間）	幸德秋水
一應用社會學（四時間）	若宮卯之助
一歷史の物質的基礎（二時間）	全
一社會の起原（四時間）	堺利彥
一社會主義の經濟論（四時間）	山川均
一勞働組合（同）	片山潛
同盟罷工の話（三時間）	西川光次郎

各國語聖書、基督教書類
其他一切新刊書類確實販賣
東京神田區表神保町二十五番地
振替貯金口座六三三〇番
中庸堂書店

新版廣告

青山學院々長 本多庸一先生 說教集 紙質精撰寫眞入 定價金六拾錢 郵稅金八錢
是レ先生獨特ノ通俗的思想ヲ以テ深遠ノ眞理ヲ極メテ平易懇切ニ說話セシモノ、今日マデアリフレタル飜譯的口吻ナク、先生ガ特創ノ思想ヲ以テ日本ノ人情ニ投合シ一言一句餘韻嫋々トシテ讀者ヲシテ興感措カザラシム、請フ 本ヲ座右ニ置カレンコヲ

バウン博士著 小山正武氏譯 基督教天啓論 一名聖書研究の要領 定價金貳拾五錢 郵稅四錢

ジヨン、アールモツトー述 瀧浦文彌君譯 活ける基督信徒 定價金參拾錢 郵稅金四錢
モツト先生ノ名論卓說ハ世既ニ之ヲ知ル本書ハ眞實ナル信者、舌ノ用、聖靈ノ盈滿、祈禱ノ力、傳道精神ノ振興、個人傳道ニツキテ、模範傳道者ナル基督等ノ點ニ就キテ懇切周到ニ論ジテ餘蘊ナシ而シテ瀧浦文彌君輕快流暢ノ筆ヲ以テ之ヲ譯セラル、實ニ信徒タルモノハ必ズ一讀スベキ良書ナリ

東京市銀座四丁目壹番地
內外書肆 教文館

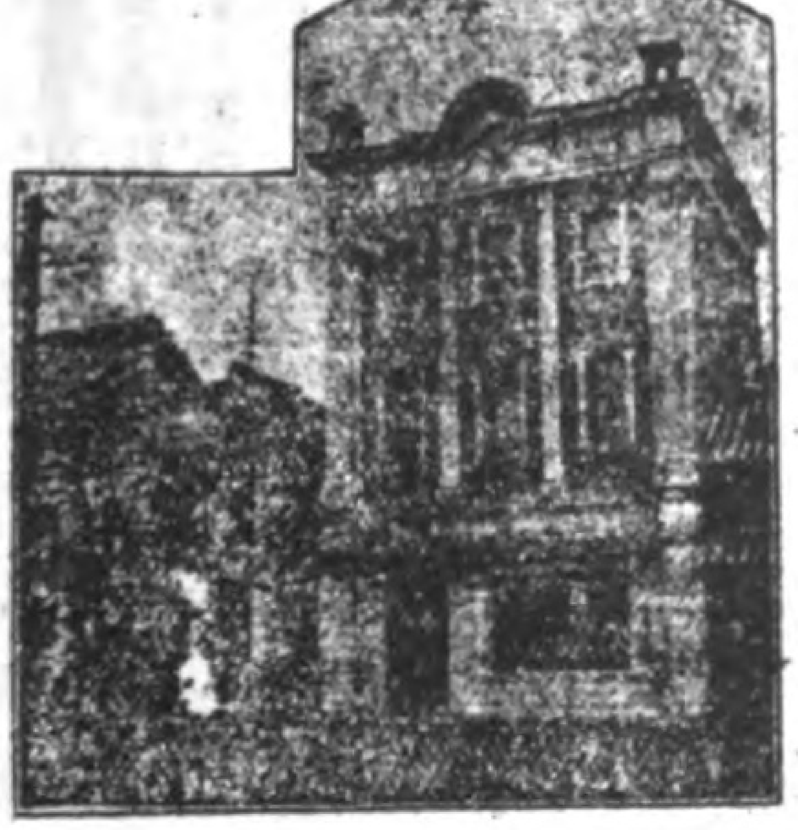
『社會主義婦人』は現世紀の一大問題たる婦人問題を社會主義の見地より解釋せんため產れたる一少英文月刊雜誌也。彼女は世界の各地に散在せる進步的思想を抱ける婦人と相提手せんとて現はれたり。日本の姉妹よ、二十世紀は女性の時代也。吾等は互に相助けて起たざるべからず。『社會主義婦人』はすなはち姉妹の朋友たり、知己たり敎師たらむとす、苟も婦人問題に興味を有するもの、英文を樂み學ばんとする者は、その男女たるに論なく必ず「社會主義婦人」を讀まざるべからず。主幹は金子喜一、編輯記者は金子ジヨセフヒイン。購讀料は郵稅共前金一個年日本金の一圓也。送金は萬國郵爲替にてふりこまるべし。
發行所 米國シカゴ五十五街西六一一九 社會主義婦人社

●齒科治療●
自午前八時
至午後六時
齒科醫 吉瀨才市郎
東京神田須田町二十六番地
●學生勞働者諸君に限り藥價手術料共半額●晝間執業者の便を計り夜間十時迄治療仕候

腦病、脊髓病
神經病、精神病 專門治療
土地高燥閑靜 電氣療法 マッサージ水治法
東京神田 田端停車場西二丁
東京腦病院
電話下谷二二〇三
院長 後藤省吾

於內外大博覽會受領
名譽金銀一等諸賞牌

體操及び運動器械
樂器及び教育品



日本東京市本鄉區本鄉五丁目
美滿津商店
（特電話下谷八四五）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY